

大阪・関西万博開催に向けた意見

御所属 (公財)関西文化学術研究都市推進機構

御名前 中川 雅永 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 日本は東京一極集中となっているが、バランスの取れた多極構造を目指すべきであり、万博を絶好の機会ととらえて地域経済活性化のためにも関西が一丸となって、世界の人々が多様な文化や価値観を知り多彩な交流を生み出す空間を提供すること。
- 大阪・奈良・京都など関西は、長く政治・経済・文化の中心地であったことから歴史的建造物や伝統芸能、和食など文化遺産が数多く根付いているエリアである。その一方で大阪の医療クラスターや神戸の医療産業都市、京都・大阪・奈良に跨るけいはんな学研都市など先端科学技術の集積地でもある。科学技術が人々の生活を変えていく中で、人間として失ってはならないもの、取り戻さねばならないものは何か、テーマをしっかりと決めて提示していくこと。
- 21世紀地球社会における科学技術のあり方(独断的で倫理観欠如などの課題提起や人類幸福への展望)を理念だけでなく、具体的なイメージも併せて世界に発信すること。
- 少子高齢化や在留外国人の増加など多様な社会に変革しようとしている我が国の問題に、テクノロジーで解決する新しい多様な文化を受け入れた技術立国の姿を見せること。
- 科学技術や産業イノベーションへの様々な取組みが、先進国だけでなく途上国にとっても重要な取り組みであり、SDGs 目標達成に向けた社会的課題解決や経済成長実現に寄与し、新たな価値創造の実現につながるということを共通認識として持てる場となること。
- 世界の見本となる持続可能な未来創造都市を提案すること。(けいはんな学研都市の目指す一最先端の健康管理システムを有した住民健康都市/生物多様性の高い里山の自然と融和したテレワーク都市/自動運転・キャッシュレス・エネルギー最適化などの最先端技術実験都市)
- 持続可能な都市のあり方とはどういうものかを、先進国の考え方だけでなく世界中から知恵を持ち寄り、世界の都市問題の解決に寄与する場となること。
- けいはんな学研都市の特色ある実証フィールドを、世界に開かれた未来社会の実証実験のメッカとして発展させるとともに世界に伍するスタートアップエコシステムの拠点となること。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 人類の課題(苦痛)からの解放のために長寿と健康(特に心と脳の健康)や食糧問題や安全な水確保などの研究成果と未来予想を見せる。
- 少子化、耐災害性、CO2削減、プラスチックごみ削減などSDGsの阻害要因になる社会課題の解決策を示す。
- 多様な文化を受け入れる新しい社会を構築することに対して、貢献できる技術や社会サービスを見せる。
- けいはんなで研究開発を行っているi-brain(脳・人間科学技術)とICT(情報通信技術)による、心に感動・活力・共感を生み出す「超快適スマート社会」の創出並びにMBT(Medicine Based Town—医学を基礎とするまちづくり)への取組みを見せる。

- 人間の能力や意欲が減退しないような人間に寄り添う技術の開発、例えば自動運転技術から運転サポート技術などの方向性を反映した未来社会のデザインを見せる。
- 国会図書館の電子情報資源への時間や空間を超えたユニバーサルアクセスの取組みを見せる。
- けいはんなのスマートシティの未来社会モデル（スマートシティ＋環境共生都市＋文化創造都市）の取組みを見せる。
- 未来の生活・サービスの体験や参加型実証実験などのアクティビティを提供する。
- 最先端技術と関西の珠玉の文化財や伝統工芸の融合を見せる。
- 遠隔地からの参加で万博を盛り上げる“eスポーツ大会”の開催。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

- 関西の各エリアを如何にスムーズに結ぶかに注力する。また大阪からけいはんなまでのアクセスの充実など、人の流れを作るために必要となる交通インフラを選定し整備する必要。
- 来場者が会場までストレスなく移動出来る様々なモビリティを活用した MaaS や、スムーズな人の流れや待ち時間対策が最小となる会場案内システムの構築。
- けいはんなをサテライト会場と位置づけ、万博後の研究開発産業技術拠点として整備し、産業技術の展示場を設置。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 関西全体が東京と違う価値を出すべきで、学術・文化・イノベーションで独特のものを突き詰めることが重要。けいはんな学研都市では日本文化のオリジンをリアルとバーチャルの両面で探訪できるような、具体的にはバーチャル技術を用いて体験したものを自転車等で実物を見に行ける、といったような体験が提供できるのではないか。
- 新たな社会サービスの実装には、万博ターゲットだけでなく万博後に大きなビジネスに繋がる社会実装シナリオが重要で、より良いモノづくりのために産学一体となって進めていくという考えが重要。
- 技術の進歩が100年200年先に向けてどういうベクトルかを表現出来ればよい。サイエンスの流れは、物理から始まり生理を経て恐らく次は心理へと向かうのではないか。人類の進歩がもたらす課題解決には、「良心」に目を向けた研究と教育が必要とのメッセージも出せればよい。
- 世界の研究者、技術者、社会科学の関係者が集積し、オープンイノベーションを基本にSDGsに貢献する研究開発やビジネス創出を図るための、「国際SDGs推進・支援センター」を設置してはどうか。
- けいはんな学研都市には、人類の未来と幸福のために何を研究するべきかを研究する高等研究所を始め、大阪・関西万博のテーマに沿った研究を行う研究機関が多く立地することから、人類課題に関する研究分野について世界の学者、経営者、政治家などのリーダーが議論する場として、国際会議をレガシーとして残すことは意味がある。